平成２９年度　共同生活援助事業実施報告

Ⅰ、グループホーム全体の高齢化や重度化は年を増すごとに加速している。平成２３年にケアホームからのスタートをしている。すでに区分３以上が４人、区分４以上が４人、区分５以上が１人　平成２７年にグループホームへの移行と新たにスペアミント事業を開設。現在、下記に示すように１５名の入居者がいる。
便失禁、尿失禁、大声を出したり、手を振り上げる利用者が見られるようになった。
それに伴い、職員配置も手厚く対応をすることとなった。朝、夕の食事を作る人など多くの配置基準を取っている。そのためか特にインシデント・アクシデントなく１年を経過した。しかし、病気等の基礎疾患を持っている利用者が多い事は事実であり、常に医療的行為は外すことはできない状況にある。職員の観察力の向上も課題の一つである。

Ⅱ、入居者　・カモミール棟（定員９名）８名（男性４名　女性４名）１名入居予定
　　　　　　・スペアミント棟（定員８名）７名（男性５名　女性２名）ショート１名

Ⅲ、取り組みに対する結果

１、ホームにて掃除や洗濯、食事（お米をとぐなど）に関することで利用者一人一人に責任を持たせることで、掃除の方法、洗濯物の干し方等、自分で出来るようになった。又、お友達の洗濯物を手伝うなど助け合いの気持ちも生まれてきたことはとても素晴らしい事でグループホームの役割の目的が果たせたように思う。

２、利用者に対する相談

利用者に対する相談援助を行った。利用者会議を月に１回実施。様々な要望や、日用品等購入したい物、ヘルパーを利用していきたい所などを聞いた。個別に居室や管理人室を利用して相談も行い、悩み等聞き、早期対応を行なった。

３、食事の提供

利用者一人一人に応じた年齢、体重や運動量、カロリー消費量等に応じて、栄養士が献立を作成した。栄養士の指導の下、食事を提供した事により、体重の減量（標準体重に戻す）に繋がった。特に体重の増加が見られる利用者には、看護師や栄養士にその都度相談し、野菜中心等のメニューに変更となり、休日に散歩やフライングディスク等の運動も取り入れる事で、標準体重に近づけた。又、正月等長期自宅へ外泊を希望される利用者に対して、保護者に昨年度の体重と今年度の体重の比較表を提示し、自宅での食事のアドバイスを行った。しかし６日間で６Kg 増加の利用者もいた。

４、入浴、排せつ、食事等の介護

①入浴

毎日支援、対応する事により清潔を保ち、発疹やかき傷の発見に対して早期対応をした。男性の髭剃りや整髪等身だしなみも整えた。肌が乾燥する１１月から４月は、保湿性の高い入浴剤を毎日使用し、乾燥による肌のかゆみや発疹等も減少した。

②口腔ケア

歯科衛生士による歯磨き指導により、利用者一人一人に応じた口腔ケアを実施する事で、清潔の維持が出来た。歯科衛生士より口腔内の状態を聞き、歯科受診を行い、保護者対応できない利用者に対してはヘルパー利用で実施した。

③排泄

排泄後に呼び出しブザーを押してもらう事で排便の有無や性状の観察ができ、肛門周囲の拭き残しがないように支援を行った。生理時も職員が対応した。排便困難な利用者に対しては、定期的に看護師が浣腸の支援を行う事で排便のコントロールが出来るようになった。

５、健康管理

①バイタルチェック

７：００と１５：３０にバイタルチェックと毎月１回（第１土日）体重測定を実施。体調不良者に対しては、施設長や看護師に状態報告・相談をし、病院受診など迅速に対応した。また、毎週月曜日には、看護師が全入居者の状態確認を行っている。

②服薬支援

服薬に関しては、準備をする際に宿直者と世話人とでダブルチェックを行い、服薬後はチェックシートに記入し、誤薬や不投薬のないようにした。又、てんかんがある利用者の服薬に関しては、薬の効果を継続させるため８：００、２０：００と時間を設定し、服薬を行った

③健康、体力維持

体力維持やストレスの解消として、休日の午後より天候や気温等を見ながら、フライングディスクや散歩を取り入れた。

④健康診断

年に１回の健康診断を実施し、国保や生保の利用者は市民検診、定期受診日を行っている利用者にはかかりつけ医で実施を行うなど積極的に健康維持に取り組んだ。

検査結果で要観察者には保護者に連絡をすることかかりつけ病院の医師につなぐことができた。

⑤、余暇活動

毎月、課外活動、買い物学習・映画等を計画し、又、定期的に買い物外出をした。土曜日曜日にはスペアミント棟横の自動販売機で本人の希望する商品を購入した。

毎月の買い物学習

・外食（毎月、利用者の希望を調査）

・カモミール・スペアミント合同バーベキュー大会

・ドライブ（花見）

・大分駅散策

・映画鑑賞

・ボウリング

・クリスマスディナー

６、緊急時の対応

平成２９年度は、計画が不十分だった事もありグループホーム内での避難訓練が未実施となった。

７、その他

・保護者会

４月と１０月に保護者会と第３者委員会を招集し、意見交換の場を設けた。欠席をする

保護者が多く発言する保護者も限られている。会議の持ち方にも課題があるように思える。個人の面談には多くの発言が聞かれていたので今後は個人面談に時間を多くとる方向にしたい。不参加の保護者に対して報告書を通じ共有を図った。

Ⅳ、利用者支援

１、股関節脱臼で歩行困難な利用者（女性）に対して、定期的な排泄への促しで尿漏れの改善（防止）にもつながり、清潔を保つことができた。

２、失禁の回数が多い利用者は、定期的なトイレ誘導を行うことで失禁の回数の減少に繋がっている。特に深夜の失禁回数が大幅に減少した。

３、てんかん発作が多い利用者に対して、てんかんの状況表を作成し、定期受診時に持参し薬の調整を行っている。難治性のてんかんの為、回数の減少までは至っていないが大きな発作は防げている。

４、糖尿病のある利用者に対して、栄養士との協力のもと細やかなカロリー計算を行い、運動療法も取り入れることで疾患（値）の安定につながっている今後も適度な運動（散歩）も取り入れ継続をしたい。

５、１年前ごろより便失禁、尿失禁がある利用者がいる。実際、シーツの汚染や床や壁タンスの中の衣服にも便が付着しているときがほぼ毎日続いていることがあった。

精神科の病院受診をしていたがなかなか改善せずに経過していた。

今回、母親の都合にて、病院を変えることで新たな疾患名が付くこととなり、治療が始まった。薬を変えることで、便失禁はなくなり、浣腸にて排便コントロールをすることとなるが、便失禁の気持ちの悪さは軽減したように思える。